20260617_全体集会の話_意外とシンプル

新たな学年が始まって、３か月目も半分が過ぎました。

最近、あいさつを返してくれる人も、そして、あいさつをしてくれる人も増えてきて、少しうれしくなりました。あいさつは、人と人がつながる最初の一歩だと話しましたが、これからもあいさつを大切にしてほしいと思います。

さて、今日は、まず、人との付き合い方接し方について話したいと思います。

１年生は校外学習、２年生は宿泊行事、３年生は修学旅行を終えて、話せる仲間が少し増えた人もいるのではないでしょうか。

一方、少し距離が縮まったことから、トラブルが起きたり、人間関係に悩んだりすることが多くなるのも、今時分です。

振り返ってみると、学生の時より、仕事についてからの方が人間関係に悩んでいるなぁ、いろいろ難しいことが増えてくるなぁと思いますが、そんなことを思い始めた時に出会った本の一節を紹介します。

人間、どう生きるか、どのようにふるまい、どんな気持ちで日々を送ればいいか、本当に知っていなくてはならないことを、わたしは全部残らず幼稚園で教わった。人生の知恵は大科学院という山のてっぺんにあるのではなく、日曜学校の砂場に埋まっているのである。わたしはそこで何を学んだろうか。

何でもみんなで分け合うこと。
ずるをしないこと。
人をぶたないこと。
使ったものはかならずもとのところに戻すこと。
ちらかしたら自分で後片付けをすること。
人のものに手を出さないこと。
誰かを傷つけたら、ごめんなさい、ということ。
食事の前には手を洗うこと。
トイレに行ったらちゃんと水を流すこと。
焼きたてのクッキーと冷たいミルクは体にいい。
釣り合いの取れた生活をすること―毎日、少し勉強し、少し考え、少し絵を描き、歌い、踊り、遊び、そして、少し働くこと。
毎日必ず昼寝をすること。
おもてに出る時は車に気をつけ、手をつないで、はなればなれにならないようにすること。
不思議だな、と思う気持ちを大切にすること。

(©「人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ」ロバート・フルガム著　池央秋訳　河出書房新社 1996、1997)

ロバート・フルガムという海外の哲学者の方の本からの引用です。

この一節を読んで、ハッと気づかされました。自分は、あまりにも難しく考えすぎていたのではないかと。

海外の方の書かれたものなので、習慣やことばなど馴染みのないものもありますが、人に対してしてほしいと思うこととは自分もまた人に対してそうしなさい、人を思う心や日常生活で気をつけるべきことなど、当たり前のことがシンプルな言葉で述べられています。

みなさんも、今一度、自らを振り返ってみる機会を持ってください。

そして、もうひとつ話しておきたいことがあります。それは、流言飛語に惑わされないでほしいということです。

流言飛語とは、「根拠もなく世間に広まっている情報」のことです。主にウソの話や根拠のない噂話が広まっているようなときに使われる言葉ですが、聞いたことがありますか。

例えば、芸能のニュースで、「A さんと B さんが付き合っている」と報じたけれども、事実を確認してみると本当は嘘だったというケースです。これは、まさに「流言飛語である」と言うことができます。他には、SNS などで広まった噂が実はフェイクニュース、嘘であったというケースも多くあります。

みなさんは伝言ゲームをやったことがありますか。話の内容をほんの少しの人数の間でも正確に伝えるのはとても難しいものです。そして、他人のことで、直接聞いたり見たり体験したりしていないことを伝えれば、途中で話が変わってしまい、変な噂やデマになってしまうことも多く、そんな噂が広まることで、居心地が悪くなる人も出てきます。

はっきりした証拠がないまま考えた推測、「たぶんこうだろう」という想像で判断してしまうことは、そのような流言飛語に惑わされてしまうことは、場合によっては人と人との関係を悪くしてしまうことにもなり、気をつけないといけません。

人と人とが付き合う中で、言葉は大切なアイテムです。

しかし、使い方を間違わないようにしなければなりません。

相手が心地よいと感じられる言葉で、一人ひとりがつながっていってくれることを願っています。